

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	IoT実習1	
科目基礎情報							
開設学科	情報処理科		コース名	システム運用コース		開設期	後期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1単位					授業形態	実習
教科書/教材	資料を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	山本 純士・清水 孝之・三島 秀三・藤本 海艶			実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア		
学習目的							
学生が最新技術動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。ITの技術は転換期にあるため、今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。さらに、多様性が求められる昨今、学生とは異なる環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本講義では学生の知的好奇心を刺激すること、他者に対する想像力、発想力を養うことができる。							
到達目標							
パソコンやスマホなどの情報通信機器に限らず、すべての「モノ」がインターネットにつながることで、生活やビジネスが根底から変わりつつある。この科目では、IoTについて理解し、プログラミングの基礎技術を用いてモノをネットワークにつないでレスポンスを取得したり、アクチュエーターを制御できることを目標とする。そのために必要な、開発環境の構築、H/Wへのプログラムの書き込み、WiFiモジュールの活用、HTTPサーバの構築、LED制御、モーター制御、ステアリング制御などができるようになることを目標にしている。							
授業概要							
授業概要	教材であるミニ四駆にCerevo社のMKZ4を搭載しスマートフォン経由でH/Wを制御することの基本を学ぶ。制御用の基盤は授業の中で実装することで、S/Wの知識や実習のみならず、H/Wの基本的な知識についても習得する。搭載したH/Wにインターネットに接続して制御する上で必要なプログラムを作成して実装する。クラウドを使用しインターネット経由でH/Wの操作や制御を行うことで、すべてのものがインターネットにつながってゆくとはどういうことなのかを感覚として学習する。						
注意点							
注意点	授業内で配布する資料、ノートパソコン、LANケーブルを必ず持参すること。新しい用語の意味を理解し名称を覚えること。電子部品は壊れやすいので丁寧に扱うこと。簡単なプログラムであったとしても、必ず手を動かして実際にプログラムを作成し、プログラムの実行結果を確認すること。授業に出席するだけでなく、社会人への移行を前提とした受講マナーで授業に参加すること。理由のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法							
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	10%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	40%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画(1回～15回)							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	IoTの考え方			IoTについて理解できる			
2回	開発環境の構築			ArduinoIDEのインストールを行い開発環境を構築できる			
3回	ミニ四駆のハードウェアについて			ミニ四駆のハードウェアについて理解できる			
4回	LED制御			C言語の基礎知識に基づいてLEDを制御できる			
5回	ROM書き込み			作成したプログラムをROMに書き込みできる			
6回	ネットワーク経由でのLED制御			WiFiモジュールを使いネットワークを介してのLED制御ができる			
7回	HTTPサーバ構築			HTMLの基礎知識に基づいてHTTPサーバを構築できる			
8回	点灯点滅をネットワーク経由で制御			LED の点灯、点滅をネットワーク経由で制御するプログラムを作成できる			
9回	モーター制御			モーターが回転する仕組みを理解できる			
10回	モーター制御プログラム			モーターの回転をネットワーク経由で制御するプログラムが作成できる			
11回	サーボモータ制御			サーボモーターが動作する仕組みを理解できる			
12回	ステアリング制御			ステアリングを制御するプログラムが作成できる			
13回	ミニ四駆制御(1)			ネットワーク経由でミニ四駆を左右へ自在に制御するプログラムを作成できる			
14回	ミニ四駆制御(2)			スマートフォンの傾きセンサーを使用して、ミニ四駆を制御するプログラムを作成できる			
15回	ミニ四駆制御(3)			クラウドを使用してインターネット経由で、ミニ四駆を制御するプログラムを作成できる			